

第18回 向陽学府小中一体校開校準備委員会 会議概要

1 開催日時	令和7年9月30日（火）
2 開催場所	磐田市役所西庁舎 3階 304・305 会議室
3 出席者（向陽学府小中一体校開校準備委員）	
学識経験者	元校長 元向笠地区長
地区代表	向笠地区長 大藤地区長 岩田地区長
保護者代表	向陽中学校PTA代表者 大藤小学校PTA代表者 向笠小学校PTA代表者 大藤こども園PTA代表者 向笠幼稚園PTA代表者
学校代表	向陽中学校長 大藤小学校長 向笠小学校長 岩田小学校長
4 事務局	学校づくり整備課学府一体校グループ長 ほか3名

会議概要

1 委員長挨拶

皆さんこんばんは。夏に学校でお会いした方もいらっしゃいますけれど、会議は2か月ぶりです。7月と9月に神戸と東京に行った。最近は新幹線に切符がなくても乗れるのです。二次元コードをかざせばね。話は変わりますが、掛川市は通信簿を1年から3年生までやめますと言ってみたり。また中教審のほうでは評価する観点を幾つかあったのを2つぐらいに絞るのじゃないかという提言がされると聞いた。いろいろ世の中が変わっているのだということを理解しています。

校舎をこの前見させてもらったのですが、教室を見るだけではなかなか分かりませんけれども、つくってしまえば建物は7.80年ぐらいそのままになると思います。備品とか設備とかも2.30年ぐらいはそのまま使うような感じになる。ほとんど決まっている中ですが、やはり次の時代を見通したような施設を子供たちのためにつくって欲しい。来年の4月、あと半年に迫りました。予算の限度はあると思いますが、子供たちのためになることを願っている次第です。

今日は、モックアップ等の見学会のことの報告を頂きながら皆さんから御意見を頂くと思いますけれども、いろいろ意見を出していただきたいと思います。よろしくお願ひします。

2 議事

(1) モックアップ見学会を通した改善点や変更点について

(委員長)

それでは議事でモックアップ見学会を通じての意見や変更点についてまず事務局のほうから報告を頂きたいと思います。よろしくお願ひします。

(事務局)

お忙しい中ありがとうございます。前のほうに資料を出していきますけれども、8月25日に現場のモックアップ見学会を開催できました。長きにわたってどういった学校をつくっていくかハード面の協議を進めてきて、この8月25日には今までの計画を取り入れながらつくってきたところの最終確認をしていただいたところです。その中でいろいろと御意見を頂いたので、そこについての変更点であるとか、中には現状維持のものもあります。そういうところの経緯をお伝えして現状確認を頂きたいと思います。全ての意見を拾いきれてないかもしれませんので、今日進めていく中で、ここはどうなんだろうとかですね、そういうところがもしお気づきの部分がありましたら、教えていただければと思います。

メール等で頂いた御意見についても反映させていただきましたので、御丁寧に連絡頂いた委員さんにはありがとうございます。

8月25日は大変暑い中でしたけれども、160名近い方が御参加頂きました。委員の皆様には、午後の時間に時間を取らせていただいて、そこで御意見を吸い上げさせていただきましたが、1番は今写っているようにですね、実際に使う子供たちの御参加もありましたので、そんな声も反映しながらというところで進めさせていただきました。年長から中学生まで参加をしてくれて、早くこういった学校に入学したいなっていう幼稚園の方もいましたし、中学生の生徒については、下級生として小学生が入ってくる学校になるので、自分たちがどういった姿になればいいのかっていうのがすごく不安ですという、中学生ならではのすごくいい意見を頂いたなというふうに思って聞いておりました。会 자체は、全体で説明をした後に、実際の4年生の普通教室を見ていただいて、細かな部分もいろいろとさわってもらったりとか、実際の雰囲気を感じて頂いたかと思います。

日時は違いますけれども、草地市長にも同じように部屋の確認をしていただきました。

意見を吸い上げた内容は、この場が1番の最終の決議機関になりますので、誰が言ったものだということではなく、協議したいと思っております。少し余談になりますけれども、当日終わった後に、古墳群のところから遺跡が発見されましたのでその見学も行いました。大変違った意味で御興味を持っていただく方が多くて、子供たちもこんなところにあるのかと感想を言っておりました。来年開校する学校に向けてという見学会ですけれども、ここに先人たちが暮らしていた跡があり、生きたあかしというものを感じていただきました。このことで多少工事に影響が出てくるなという、ちょっと違った悩みも実は出てきています。計画どおりにいかない点は、担当のほうで今考えながら進めています。

会の中では、細かなところで天井ボードの説明をさせていただいたり、二重サッシにしていくところなど、なかなか普段気づかないところなのですけどもそういったところも皆さんに説明させていただきました。今日は、大きく三つの部分で御意見を頂きましたので、そこらの三つのことについて、頂いた意見とこちらからの提案をさせていただきたいと思います。

一つ目がロッカーです。教室の後ろ側にあるロッカー全体の部分。そして廊下側の建具もそうなのですけれども、頂いた意見の説明をしていきたいと思います。まず、ロッカーについて、多くの学校は後ろに黒板があつたりするのが多いのですけれども、そうじやないのですねっていうところの御質問を頂きました。

教室背面の仕様について、当初設計から収納力を優先しています。今までの学校はもう1段低いようなロッカーで、後ろにも黒板があつたり、掲示がいっぱいできるようなスペースがあつたのですけれども、収納力を優先させたことで、黒板があつてもちょっと書きづらいような高さにもなりますので、いろいろ協議する中で、教室の背面は1年間を通じて目標などずっと掲示したものが多いということから、掲示板としての役割に集中させました。黒板はありません。素材としても当初は木質のものを設計していたのですけれども、素材を取り寄せた中で、安全なものを選択ということで、掲示クロスを選択することになりました。シールでも画鋲でも使えますが、安全も考慮してシールで対応していく考えです。

ロッカーの素材のところでの御意見を非常に多く頂きまして、多くの方が触れて、ちょっと違和感を持たれたかなというふうに思っています。まず意見としては表面がざらざらしているとか、素材的にトゲが刺さりそう。とか、見た目が下地のようとか、節が気になる。といった意見が多かったのですけれども、確認しましたら、ちょっとスケジュール的に間に合わなくて、仕上げが本来のところまでいってないものを設置したっていうことで話がありました。今日サンプルを持ってきましたが、磨きを想定までしたものと、塗装を2回目と3回したもの、こういった3種類のサンプルを持ってきました。現場で触れた方は分かるかと思いますが、改善しているなという感じがします。ただ2回目3回目とこのマークのついたところを触っても私はあまりちょっとあまり違いがわかんないなっていうぐらいのところです。1番は磨くのが大事だったのだということを感じました。

どれでも対応できますが、素材のサンプルを回します。

(委員)

担当としてはどれがいいと考えているか。

(事務局)

メンテナンスもしやすいですし、磨いたうえで3回塗りがいいかなと考えていますが、もし御意見あれば、持ち帰ります。

(委員)

木目の節についても、時間がたつと穴が空いたりするのではないか。

(事務局)

合板なので、穴が裏まで貫通してしまうことは無いと思われます。なるべく見た目のきれいさも含めて、目立った穴が無いような状態で施工するようにしていきたいです。

(事務局)

ロッカーの大きさですけれども、ながふじ学府のロッカーよりも、少し形状とかですね大きさを変えております。ランドセル入れたときの雰囲気はどうだろうっていうところで、御連絡頂いた委員の方もいらっしゃいましたので、ランドセルを入れた写真を撮りました。この形状を変えるかどうかっていうところについても御意見を頂きましたが、ランドセルと道具箱が十分入るのは、写真のとおりです。中学生のカバンは横幅が少し出るかもしれません、十分入るためこのままで大丈夫ではないかという結論になりました。

廊下側のところの余剰スペースというか、空いているスペースがあり、そこに関していろいろ活用できるのではないかということで、例えば1番上の棚だけ伸ばそうとか、あと1番端はごみ箱を置くスペースを残し、フラットファイルみたいなものを縦に3段置けるようなスペースをつくろうかとか、このままで良いじゃないかといういろいろな意見がありました。教頭先生たちにも確認していただいた結果、例えば扇風機などを人が通るときに邪魔にならないように置くスペースとして、割といろんな活用ができるじゃないかっていう意見があつて、全体的なサイズと形に関しては、このままでいきたいと考えております。

(委員)

ロッカーの上に掲示物を張るときに、ロッカーの上に乗っても壊れないよね。

(事務局)

大丈夫です。

(事務局)

ロッカーの窓側にある掃除用具の利用目的というか、使い勝手が悪くないかという声を頂きました。上部の戸と下の部分の掃除用具掛けの高さが結構高かったのですね。そういうところを改善していくので、それについてお伝えしたいと思います。

ここでの意見は、掃除用具入れとして使うのにバーの高さが1メーター80 ぐらいの結構高い位置にあったので、小学生がかけるのに使いにくいのではないか。あとは上の扉に関してちょっと高過ぎる。図面で示しますけれども、30 センチくらい下げて掛けやすくして、同じように、上の扉も下がってきます。利便性が大きく改善されると感じます。上部は、基本的にはここは児童生徒が使うというよりは先生が、雑巾入れなど、季節ものを入れるスペースを考えます。あとはバケツが置かれるけれども木の床で大丈夫かということで、これはトレーなどを買うことで対応していかなければなと考えています。あとは掃除入れの扉に雑巾掛けが欲しいということで、教頭先生たちから意見が出たので、対応していきます。

何か今出てきた意見の中でも結構ですし、それ以外で拾い切れなかった部分がもしあればお願ひします。

使い勝手の部分では、見られた先生方の目線でどうだろうっていう声を生かして改善

していきたいと思います。

次に、廊下側の建具と鍵の利用について、これは先生方からも御意見頂きました。

当日は教室内からもカギがかかるようになっていましたが、中からかけられない方がいいということで、そのように対応を考えます。

(委員)

防犯訓練とかするときに、もし不審者がいたらバリケードを作つて中に立てこもるということをやる。その点では、中からカギを掛けられる方がいいのではないか。

(事務局)

意見としては、むやみに中から鍵をかけてしまうようなことがないほうが、運営上いいだろうという、そういった御心配の部分ではなかつたかなと思います。両面のメリット、デメリットがあり、何を優先するかということになると思います。

(委員)

個人的に考えると、子供たちだけの時間ができたときに閉められちゃって、何かあってはいけないなっていうふうに感じます。マスターキーで開けられるとしても、そのタイムラグが重大になることもある。どうしても教室内に子供だけの時間ができてしまうので、掛けられない方がよい。時代によって、先生が退室するときに常に施錠していた時代もあったが、そもそも普通教室が2階以上になることや、不審者が建物内に侵入しないようなソフト面での運用も考えていきたい。

(委員)

その場合でも、カギの部分が出っ張つていてぶつかりやすいと思うので、出でないように改善できないか。

(事務局)

施工業者と協議します。

(委員)

上部の欄間にもカギはかかりますか。

(事務局)

上部の欄間部分には留め具がありますので、カギではありませんが、外から開けることはできません。

あとは引き戸の引込みの指挟み防止の調整が必要ということで確認しているところですが、前は内側のところで手が挟みそうなつくりだったので、そこは改善していきます。

教室と廊下の間の建具全体を通して出た意見からしますと、出入口と上部しか開校できないのかという点です。今までの学校だと教室と廊下の間の上部や足元を開けて風通しをよくしていたということがありましたけれど、今回は、教室前後の戸とその上部のみ開口するようになっています。

教室の向かいに学年コモンズがあり、視認性というか、お互い見えるところに配慮することを優先した設計になっていたのですけれども、この地域だと、やっぱり中間期に換気をしたいという意見も結構あったものですから、開口部の増設を検討しました。

資料で見ていただくと、教室側面の出入り口も含めて7つのマス目があります。大きな嵌め殺しのガラスについては、開口するとしてどのように変更するか検討したところ、指の挟み込みや、安全性を考慮して、やはり視認性を優先するとむずかしい。引違いの戸にすると、仮に開口するとしてもそんなに大きく変わらなくて、見た目コストもかかるものですから、コストバランスを含めて、上部の1か所を開口することで、教室を前とすると真ん中バランスよく上げるような形で今検討しております。

(委員)

そこをあけなくても換気できると聞いたのですが。

(事務局)

設備としては、各教室に熱交換式の換気扇がついています。これはながふじとここだけです。この熱交換式っていうのが、例えば夏の冷房の冷たい空気をそのまま外出してしまうと、もったいない。外にある熱い空気をそのまま入れてしまうと、また冷やさなければいけない。これを機械の中ですり合わせて熱を交換して中に入れるという仕組みです。これを、この向陽学府では学年コモンズにはエアコンがついていないものですから、教室から熱交換したけどまだ冷たい空気がコモンズに落ちて、その後換気するというつくりになつていうことを説明したと思います。

(委員)

はい。それであれば、そもそも追加で開ける必要ないですね。

(事務局)

機械で全部整理をすれば、空調を関係なしにしても、感染症のことを考えても、換気できるという状態はつくれます。ただ、窓を開けて換気したいということの意見でした。窓を開けない1番最初の設計では、音を止めることを優先して、視認性も重視していました。こういったつくりにしていることの面と、開けたいという意見もあってですね、最低限開けるようにして検討しています。あと、図面にありますが、例えば1階の特別支援教室などは、開けたとしても風の抜け口がないところなので、開けてもそんなに効果が期待できないところに関してはそのままの面を優先したフィックス、嵌め殺し窓の状態のままにしています。コモンズから風が抜けていけるようなつくりのところには、自然の風を抜かせるようなつくりとして考えています。

(委員)

中学生の試験中に、小学生がうるさくして静かにしてねって、ながふじでも実際にはある。やっぱり開けないほうが良いのじやないかな。

(事務局)

この向陽学府に関しては、各学年のユニットになって、各学年のユニットがコンクリートの壁で囲まれていますので、吹抜けもなく、小学校と中学校の音環境は割と分けて考えられる。

(委員)

5年前の構想の時に、音を遮断することだった。それを変更するとなると、また

お金もかかる。

(事務局)

その計画が反映されています。何を優先するかはありますが、開校に向けて今いらっしゃるメンバーの意見がそれぞれいいところもあつたりするのですけれども、今回の見学会の中でいくと、一定数は風が通ったほうがいいのじゃないかっていう意見が多かったものですから、今のところこういった検討をしております。

(委員)

参観会の時に、保護者が教室内に入りきらないので、廊下から見てているという状況もある。その時に音も聞こえるように多少聞くようにしておくのも良い。

(委員長)

毎年インフルエンザもある。養護教諭が、授業が終わったら換気しましょうと言っていると思う。基本的に換気システムがあるのですする必要はないわけですね。

(委員)

換気扇も電気を使うので、電気が使えなくなった時に開けたり閉めたりとか、避難所になつたりしたときとか、万が一を考えて開けることもできるほうがいいのかな。

(委員)

やっぱり上が開けばいいのかなっていうのはあるが、100%がないので、どこかで最善の策を選んでもらえばいいと思います。ここで答えをまとめることはできないと思います。

(委員長)

1番大事な学校現場の先生の意見を聞いていただければ。案を出して。それが1番いいと思います。

(事務局)

いろいろ御意見ありがとうございました。

教室全体についてですけれども、窓側のカーテンレールは発注仕様でいくと、各教室にはカーテンレール一本だったのですけれども、これも学校の先生からの意見としまして、テレビやホワイトボードに反射するので、教室の前のほうだけでも光を通さないカーテンを付けたいということで、2本のレールをつけてほしいという御意見が出ました。それは対応していきたいと思います。

次に予定用のホワイトボードです。こちらについて御意見頂きました。学校と協議した上でのことなのですが、教頭先生から最終的な決定をもらって、当時は、学校からの意見で小学校1年生から6年生まで全部平仮名という意見だったのですけど、学校で再検討していただいた結果、学級数の関係で教室の使い方について、当初設計では1年生2年生3年生4年生を想定している場所、違う使い方することが結構あるかもしれないということで、ホワイトボードに直接書き込むのは高学年用の漢字のパターンとします。ただ、低学年が使うときには、ホワイトボードの上にまた貼れるホワイトボードがあって、それを貼って対応します。

ホワイトボードについては、曲面なものにならないかといった意見があったのですけれども、このホワイトボードは最近、つやが3段階あって、中間のものになります。映写時も反射率が少なくなって見やすいです。平面でもそんなに影響なく使えるハードボードということで、素材がいいので曲面にしなくても、見やすいということで対応しております。

ホワイトボード下のコンセントの位置も中央のほうがというところの御意見を頂きました。ここは工事の進捗具合からしても、コンセントの位置を全ての教室を同じように真ん中にすることは、現場サイドで難しい点がありました。その後、教頭先生の現場確認したときに、いろいろ使い方を確認して予定通りでも差し支えないという御意見も頂きましたので、このまま進めていきます。

以上、教室全体について、御意見を頂きました。今日頂いた御意見をもとに最終的なところで申し上げた形になりますけれども、漏らしたところがあれば、再度頂ければと思いますがいかがでしょうか。何かありますか。

(委員)

空気清浄機の設置については、考えているか。

(事務局)

向陽学府に関わらず、市内全体としてどうするか考えていく必要があると思います。

(委員長)

掲示用にシールを使うというが、どのような考え方説明して欲しい。

(事務局)

壁面によって、画鉛が使えるところと使えない所がある。安全性も考えて、統一的に使えるように既存のシールがあるので、それを採用していく予定です。

(委員長)

いろいろ細かいところの説明をしていただきましてありがとうございます。

(委員)

今日の意見は、最終的には先生方に確認して決めていくのですか。

(事務局)

予算的にも、現場の進行状況としても、対応できるところに関しては頂いた御意見を検討して、対応すべきところはさせていただいていると思います。ほぼ、今日説明した内容で進められると思います。カギに関しては、現場と改めて協議して結果を報告させていただきます。

(委員)

先生方の要望を確認して決めてもらったら、結果をこの開校準備委員会で報告をしてもらえばよいです。

(委員長)

それをまた開校準備だよりで報告するなどお願いしたい。

それでは議事は終わらせていただき、報告のほうに行きたいと思います。お願いします。

4 報告

(1)スクールバスのマニュアルの配布及び今後の予定について (事務局)

皆さんの御協力のおかげで、スクールバスマニュアルが完成しました。

完成するまでの間、学校の関係者及び開校準備委員の方はじめ、説明会等で意見をもらっているいろいろな御意見をなるべく取り込んだマニュアルになった感じです。その中で、すでに早速9月26日に配信した結果、今日時点で、結構な質問を頂いております。質問については、保護者説明会をやった中で、曜日によってバスに乗るか乗らないかなど、個別に考えていくことがある程度できると思っていたのですけれど、現在まだ新しい学校も開校しておらず、協議していく中で、先生方が決まってない中で着手できないというところで、暫定的な形でマニュアルをつくらせていただいた。

2年目に入ったときには、ある程度、バスの運行に関しても、安定的に結果が出ると思いますので、そのときにはなるべく保護者説明会で出た意見を踏まえて、利用しやすいバスを目指せるようにはしていきたいなと思っております。

その中で、委員の中には、保護者の方から質問等を受けている方もいらっしゃると思います。今日、お答えできることについてはお答えしたいとは思いますが、またQ&Aを作つて、ホームページやコドモンで配信していきたいと思います。

10月10日の金曜日を目途に配信しますので、それをまとめるにあたって、御質問等を頂ければ、今週金曜日までに学校づくり整備課に頂けるとありがたいです。

10月1日から31日までの1か月間の間で、バスの利用申請を募ります。その結果が12月の上旬ぐらいをめどにまとめられると思います。二次元コード入りの乗車証を発行する予定です。それを踏まえた上で、2月に保護者を含めた中でスクールバスの試運転を行います。

(委員)

Q&Aの配信が10月10日までという話がありましたが、10月1日から申請でき、保護者が申請した後にQ&Aを見て、やはり変更となると上書きされるのか。それとも二重に申請となるのか。

(事務局)

ログフォームという電子申請のサービスを使わせていただきます。基本的には変更できるようなサービスですが、ただ変更するにあたって作業が必要になるため、修正については、電話連絡をお願いしたいです。削除した上で、再度申請することとしたいと思います。

(委員)

それもQ&Aに記載してください。

(事務局)

分かりました。

(委員)

乗降場所について。どこから乗るというところは、基本的には、申請する方が決めるということでおよろしいでしょうか。

(事務局)

乗降場所については、自治会ごとに決められている場所を原則として、行き帰りとも同じ場所としていただく。

ただし、同じ自治会でも、乗降場所の位置によっては、隣の自治会のほうが近い場合もある。自宅からバスの乗降場所までについては保護者の責任でお願いしていることから、よほど変な場合でなければ、ある程度は柔軟に対応しようと考えています。

(委員)

では、保護者が決めていいということですね。

(委員)

自治会の中には同じ場所で乗りましょうと決まっている自治会もありますよね。

(事務局)

例えば岩田地区では、乗降場所について自治会で見守り隊を協力していただけるような形で聞いています。そういった、地域の見守りの方法にもかかわってくる。

(委員)

通勤時間の都合で、1便目の乗降場所で乗せたいということも良いのか。

(事務局)

仕事の関係で、早く出るところから乗せられるなら連れていくという意見もありました。そうすると、定員の想定が崩れてしまいますので、基本的にはまずは、御自身のお住いの自治会の公会堂が乗降場所になっているので、そこを利用していただくのが当初の原則です。そこをお守りいただきたい。

(委員)

Q&Aに、できるできないをはっきりと書いていただきたい。

(委員長)

個人の判断で考えが崩れてしまうので、気を付けないと。

(委員)

でも、個人の自由なら変えたい人も出てくる。申込時点でははっきりさせないと崩れてしまうのでは。どうでしょうか。

(事務局)

事前調査の結果、ほとんどご自身の自治会の乗降場所を選ばれていることから、今のような選択は少ないかと思います。とはいえ、そこを明確にして欲しいという声がありましたので、原則として示したいと思います。

(委員)

ということは、ダメなのか。ダメじゃないのか。ダメじゃないと思う。

(委員)

地域が難しくなる。他の公会堂の乗降場所まで保護者が車で運ぶなら見守りが要らないが、歩いて行くなら見守りをどこまで広げないといけないのか考えなければならない。

(委員)

原則は原則でしっかりとやってもらいたい。

(委員)

今でも通学路を考えると、複数人でなければ通学路として認められない。公会堂まで直線距離で近くても、横断歩道を渡るために安全を優先して遠回りすることもある。原則はあった方がいい。

(事務局)

原則は原則としての取り扱いを考えていますので、原則に合わない申請があった場合については、個別に確認をとります。

この場で何かほかに報告する内容はありますでしょうか。

(委員)

バスでなくてもいいですか。あと半年になりましたけども、開校準備委員会は、令和8年の4月以降はやらないですか、やりますか。

(委員長)

委員の委嘱は開校までで終わりです。何かしなければいけないとは思う。

(委員)

地域支援室の話とか、みんなの家とか、まだやっていませんよね。

(事務局)

4月以降もまだ協議していくべき内容はあります。まだ明確な方向が決まってないですが、事務局でも相談をさせていただいております。その内容も含めましてまた今後検討していきたいと思います。

5 連絡事項

(事務局)

次回第19回ですけれども、12月16日火曜日、時間は同じ6時半からということで予定します。また1か月前に通知します。よろしくお願いします。

6 閉会

(事務局)

以上で第18回の準備委員会を終了します。ありがとうございました。